

ホームカミングデイ・講演会について

教育学科の会では、毎年、日女祭にあわせてホームカミングデイを開催し、講演会やシンポジウムを行ってきました。

しかし、今年は新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、日女祭が中止となりました。それに伴い、ホームカミングデイ・講演会も残念ながら実施することができなくなりました。来年こそは、新天地の目白キャンパスで開催できることを期待したいと思います。

※例年、ホームカミングデイの前に開催していました回生委員会も今年は中止いたします。

次回開催日程につきましては決まり次第お知らせします。

会長就任のご挨拶

教育学科教授 井上 信子

この度、田中雅文教授のあとを受けて、会長を務めることになりました井上でございます。専門は、臨床心理学、十年ほど前から教師による「教育相談(学校カウンセリング)」を中心に実践および研究をしています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今年度、入学式を行わず、ガイダンスもオンラインで実施するなど、本学でも異例の対応を余儀なくされております。5月7日から前期授業が開始いたしましたが、はじめて遠隔授業を行い、全学をあげて新しい授業形態の構築に全力で取り組んでおります。授業形態は大きく分けて以下の3種類です。A:講義資料・課題提示による遠隔授業(manabaを利用)、B:オンデマンド型遠隔授業(manabaを利用)、C:同時双方向型遠隔授業(manabaとともに、ZoomまたはMicrosoft Teamsを利用)。各教員は、これらを使い分ける、組み合わせるなどの工夫を凝らし、授業の質を落とさず、遠隔ならではの良さを活かそうと努力しております。しかし、いざ実行してみると、予想できなかった難題が降りかかり、行く手を阻まれることも多々ありました。しかし、教職員、学生、みなで力を合わせてなんとか乗り越えようと、いまま奮闘しているところです。「教育学科の会」の学生委員たちが自発的に委員会を主宰し、目を見張るような活動ぶりを見せてくれています。これが何よりうれしいことです。その活動を支援します学科側のスタッフは、世界最高峰のスタンフォード大学でのご研究を新型コロナウイルスの影響で延期された教育社会学者、藤田武志教授、東京学芸大学附属小学校から移られるや否や女子学生から大人気、理科教育がご専門の五十嵐敏文助教、本活動への縁の下で力持ちでいてくださいます中央研究室の助手の皆様です。さらに、本学科の慈愛深く素敵な若き長老、前会長、田中雅文教授が、理事の入れ替えを鑑みて残留の上、お導きくださることになりました。このような体制での出発となります。

教育学科の卒業生と在校生を繋いでくださる「教育学科の会」は、これまで、長年にわたり教育学科にとってなくてはならないご存在であられましたが、このような苦境のときにこそ、一層心強いご存在でいてくださいます。「教育学科の会」の皆様は、心よりの感謝を申し上げます。拙文ではございますが、これをもって就任のご挨拶とさせていただきます。

現在の教育学科は1990年、学部増設に伴い人間社会学部の一員として再出発したものです。それ以来30年間、西生田キャンパスで教育・研究活動を実践してきました。

西生田キャンパスは約30ヘクタールの豊かな森の中に、附属中学校・高等学校とともに人間社会学部を配置しています。かつて里山として利用されていた森には、今でも春はウグイスとサクラ、夏はホトトギス、秋はモミジの紅葉など、四季折々の自然を楽しむことができます。生態系の豊かな自然環境が根づいています。

教育学科は地元の川崎市と連携し、教職課程の学校インターンシップと教育実習、社会教育主事課程の社会教育実習などにおいて、大変お世話になってきました。そして多くの卒業生が、市内の小中学校で教員として勤務しています。とくに多摩区との間では、専修大学、明治大学とともに三大学連携事業を協働で行い、さまざまな協力関係を蓄積してきました。

教育学科の会としても、5月の大会(総会及び学縁の集い)、10月のホームカミングデーなど、数々の活動を西生田キャンパスで行いました。毎回、卒業生の皆さまには大変お世話になり、山の上のキャンパスまでお越しくださり学生たちを励まして頂きました。

このように、西生田キャンパスは川崎の自然と地域連携の中で教育学科の発展を支え、教育学科の会の諸活動の舞台を提供してくれました。そのキャンパスとも、2021年3月をもってお別れとなります。ふり返ってみれば、教育学科は1950年、当時の文学部に設置されました。その後40年を経て西生田に移転、さらに31年後に再び目白の地に戻ります。

2021年4月から、教育学科の会は目白を拠点として再スタートします。しかし、私たちは最初の目白時代の40年と西生田の31年を、ぜひとも記憶にとどめておきたいものです。そこで、教育学科の会の歩みに関する資料・冊子類をまとめてどこかに保管しておいてもよいと思います。それが目白での再スタートのねになるのではないかと感じています。

教育学科の会の歴史を大切に

教育学科教授 田中 雅文

提言

第77号

〒214-8565
川崎市多摩区西生田1-1-1
日本女子大学教育学科の会
電話 044 (952) 6870 (代)
FAX 044 (952) 6889
ホームページ
<http://jwu-gakuen.net/>
メールアドレス
info@jwu-gakuen.net

別稿
特寄

コロナ時代そしてポスト コロナ時代の学習スタイル

吉崎 静夫

日本女子大学名誉教授

今年の3月初旬から約3か月間にわたっての休校(一部は分散登校)によって、わが国の子どもたちの学習は一変しました。そして、学校教育に携わる教育学科のOGの皆様も、その対応に苦慮されたことでしょう。

ところで、この期間に「Zoomなどのウェブ会議システムを活用した同期型オンライン学習」を実施できたのは、公立の小・中・高校の約5%にすぎないといわれています。中国や韓国などの近隣諸国ではオンライン学習が当たり前のように行われている状況を見ると、わが国の遅れには怒りさえ感じます。さらに、わが国においては、公立学校と私立学校の実施状況の違いが顕在化しました。

結論からいえば、「学校での対面の授業」「家庭での非同期型オンライン学習(好きな時間に好きな場所でネット教材を用いて行う学習)」「学校と家庭をむすぶ同期型オンライン学習(Zoomなどウェブ会議システムを活用して同時進行で行う学習)」の3種類の学習様式(学習方法)をできるだけ早く確立すべきであると思います。そのためには、国が前倒しで進めている「ギガスクー

ル構想(子ども一人一台のパソコン、学校の通信システムの高速回線化)」を各教育委員会や各学校はすぐに実現させる必要があります。

自宅がある茨城県笠間市(人口7万5千人)の教育委員を昨年(春)から務めています。そこで、教育長とも相談して、反転授業を市内の小・中学校に導入することにしました。なお、反転授業とは、授業に先立って自宅で動画(ネット、またはDVD)などで学習し、授業ではその知識を活用して学ぶものです。そこでは、「従来の学習システム(学校での授業+家庭での復習)」から、「反転授業での学習システム(家庭での予習+学校での授業)」への転換を図るものです。もちろん、すべての教科のすべての単元で行われるものではなく、反転授業がしやすい教科・単元で実践しています。笠間市教育委員会のホームページには、「習得型学習の反転授業」と「活用型学習の反転授業」のやり方(いわゆる、笠間モデル)が紹介されています。一度ご覧ください。

私たちは、この反転授業を足掛かりにして、前述した「学校での対面の授業」「家庭での非同期型オンライン学習(好きな時間に好きな場所

でネット教材を用いて行う学習)」「学校と家庭をむすぶ同期型オンライン学習(Zoomなどウェブ会議システムを活用して同時進行で行う学習)」の3種類の学習様式を構築したいと考えています。そのことが、コロナ時代そしてポストコロナ時代の学習スタイルになるのではないのでしょうか。

わが国の学校教育(特に、義務教育)は、世界の人々が驚くほど高い成果(例えば、国際学力調査の結果)をあげてきました。しかし、わが国のよき伝統を維持するためには、革新(刷新)が必要です。その典型例が、オンライン学習の普及です。

このような時期だけに何かと大変でしょうが、教育学科のOGの皆様のご活躍とご健康を願っています。

第59回総会報告

本年度の総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ホームページに議題を掲載した上、異議や質問があれば1週間以内にメールで申し出ていただく方法によって行いました。5月30日(土)に掲載し、6月6日(土)までの1週間の間に異議がありませんでしたので成立とさせていただきます。(それ以前の理事会では賛成を得ています。)

総会報告として、まず会長挨拶があり、平成31年(令和元年)度事業

報告及び各部報告、決算報告、令和2年度事業計画、それに伴う予算案、理事候補が掲載されました。

平成31年度の主な事業は以下のとおりです。5月25日(土)に第58回総会が行われ、その後の学縁の集

いでは3名の卒業生のお話を伺い、質疑応答がありました。10月19日(土)のホームカミングデイ・講演会では、桂福龍氏が「落語の世界を

teaching—カナダ人落語家から学ぶ日本文化の魅力—」と題して日本

の伝統と英語を融合させた「英語落語」を披露して下さいました。11月

12日(火)には目白キャンパス見学会が開催され、成瀬記念館、分館(成

瀬先生旧宅)、成瀬記念講堂、泉フ

ロートガーデン(百年館屋上庭園)、新図書館を見学しました。11月30日

(土)の懇話会は、百年館で湘南鎌倉総合病院救命救急センター長・山

上浩先生により「これからの救急の話をしよう」と題して講演いただきました。

「治療と延命の違いは何?」「救急車で運ばれたらどうする?」

など現場の経験をふまえてお話を頂きました。私たちが出来ることは「お

くすり手帳」をハンドバッグに入れておくこと、これで医者は治療の方

針が立てやすくなるそうです。また、3月には紀要『人間研究』第57号が

発行され、会報『葦』第75号が9月に、第76号が3月に発行されました。

また、教育学科の会奨励賞が郭明氏に授与されました。

浦野敬子(25回生)

会員の広場

フィンランドにおける

社会性を育む特別教育

—義務教育からのフェイドアウトを防ぐ

JPOO(ヨボ)プログラム—

尾崎 啓子

(33回生・博士課程前期5回生)

元 埼玉大学教育学部教授
現 立教大学専門相談員

皆さんは、フィンランドというと何をイメージされますか。森と湖の国、ムーミン、オーロラ、マリメッコなどのテキスタイル、サウナ、など様々なものごを思い浮かべられるのではないのでしょうか。近年では、「学力世界二」(経済協力開発機構による生徒の学習到達度調査)「世界幸福度ランキング一位」(国連調査)の国としてもよく知られています。男女の格差がほぼ無く、女性の社会進出が進んでいることを証明するうちに、昨年末には現職として世界最年少のサンナ・マリン氏が首相に就任して、話題になりました。

私は平成23年9月に初めて教育視察で訪れて以来、フィンランドの豊かで美しい自然、静けさ、教育における合理的な考え方や工夫のある取組などに魅せられ、昨年までの9年間、毎年1〜2回訪券しています。特に昨年は、4月から5月にかけての1か月間ヘルシンキに滞在し、中

央駅そばに新設された中央図書館に毎日通ってのんびり考え事したり、帰りに湖のほとりを地元の人たちと交じって散歩したりと、至福の時間を過ごすことができました。

現地では、幼稚園・総合制学校(小・中学校)・特別支援学校や矯正教育施設、青少年の居場所施設、教職員組合、ネウボラ(出産・子育てへの支援を行う場所)などを訪問して、主に特別な教育ニーズをもつ子どもへの支援に関して、関係者へのインタビュー調査を続けています。これまでの研究成果の一部は、日本女子大学教育学科の会発行の『人間研究』49号、50号、56号で報告させていただきました。柔軟に変わる学校教育の特徴や授業の進め方、教育を貫く考え方などお伝えしたいことはたくさんありますが、本稿では、彼の地の教育内容の中でも私が特に関心を寄せている、義務教育からのフェイドアウトを防ぐことを目的とした

JPOO(ヨボ)という特別支援プログラムについてご紹介します。

本題に入る前に、フィンランドの概略と教育制度について、簡単に説明しましょう。

フィンランド共和国は、面積は日本よりやや小さく、国土の約7割が森林、1割が湖沼です。人口は約551万人で、首都のヘルシンキに約64万人が暮らしています。広い国土に対して人口が少ないため、学校は都市部以外では小規模校が多く、タクシーで通学している子どももいます(タクシー代は自治体が負担)。

義務教育は9年制で就学年齢は7歳ですが、6歳児を対象に、総合制学校や幼稚園において就学前教育が行われています。教育の特徴として、就学前教育から高等教育に至るまで無償、生徒間・学校間・地域間・家庭環境の違いによる学力格差の少なさ、教科書検定制度も採択制度も無いこと、少人数の学級編成、少ない授業時数、テストよりも学びそのものに焦点化した授業内容、高度な資質を備えた教師(幼稚園教師を除くすべての教師に修士号取得が義務づけられている)、などが挙げられます。学習義務はあるが学校に行く義務はない、始業式・運動会といった学校行事や部活動がない、教師は教え方の

自由裁量部分が大きく長時間労働もない、など、日本の教育事情とはかなり異なるシンブルさです。ちなみに、塾も偏差値もなく、受験ありません。私が初めてフィンランドの学校訪問をした折に、中学校の先生方に職業ストレスについて尋ねた時、「ストレス?まったく無いです。」と聞いてみんなで大笑いされたことは忘れられません。ただしここ数年は、要求の多い保護者との関わりや、通常学級における特別支援教育の進め方などの課題が出てきて、「ストレスは少しはある」という状況に変わってきているようです。

教師がリラックスできるように、どの学校に伺っても職員室には明るい色のソファが並び、シナモンロールやりんごなど休み時間にちよつとつめる食べ物とコーヒーが常備されています。マッサージチェアが置いてある学校もありました。夕方4時には学校内の人影はまばらになり、先生方は自宅近くろぎながら翌日の授業準備をしたり、ご自身の研究を進めたりするそうです。「教師は、逆立ちしながら中国語で教えても、子どもが伸びればすべてOK」と言う方もいて、成果主義というのか、とにかく子どもの持てる力を伸ばすことに注力する姿勢、考え方が強く示されました。



職員室でくつろぐ教師たち(中学校)

授業はICTを活用したわかりやすく工夫されたものが多く、「教える」というよりは子どもの自発的な学びを尊重する指導となっていて、時間割は柔軟に考えられていて、たとえば、国語の時間に子どもがのつてこない、身体を動かす体育や図工に変えることがあるといった具合です。子どもの自主性や人権はとても大切にされています。一例として、給食のおかずは個人が食べたいだけとする方式で、「たくさん食べるように」「好き嫌いせず食べるように」といった指導は見られませんが、食の細い子、偏食のある子などのことは、「無理をさせて食事がいやにならないことが大切。成長すれば変わるでしょう」とおおらかに見守っているようです。

「子どもが伸びるのならどんな教育方法でもすべてOK」という表現の背景には、「教育の目標は、ひとりひとりが自分の生き方を見つけるように促すこと。個々の特性に応じた職業に就くことで社会的な貢献ができる」とい。具体的には、納税者を育てること」という合理的な考え方がありとされます。その考え方に基づいた教育実践のひとつが、総合制学校8年生(中2)と9年生(中3)で行動面などに課題を持つ生徒を対象としたJOPO(ヨポ)プログラムです。JOPOは「柔軟な基礎教育」の略語で、従来の学習形態への適応が難しい生徒たちを対象に、職業体験や実技経験の機会を豊富に取り入れ、様々な支援サービスを活用する学習様式を指します。各自治体に1〜3クラス設置されていて、10名程度を1クラスとし、特別支援教室として運営されています。入級を希望する生徒は、保護者とともに学校の面接を受けますが、人気があるので倍率があり、希望者全員が入級できるわけではないのです。

JOPOでは、義務教育を終える前の2年間の間に、自立して稼げる人になることを目指しています。年間100日は学校で学び、80日は自分で探してきた職場で実習を行います。学校では、教科の学習もありますが、人が社会で生きるために必要なマナー、態度、常識なども教わります。教師は、生徒同士が人間関係をつくる手伝いをしたり、生活習慣が身につくように指導します。成績評価はテストの点数ではなく、実習先での評価の蓄積によります。責任感、遅刻や欠席の有無、前向きな態度などが評価されます。私は5つの都市のJOPOクラスを訪ねましたが、どのクラスでも入級生徒の満足度が高く、保護者、実習先にも好評というものでした。

インタビューした担任の先生方7人によれば、JOPOに入級する生徒の大半は、コミュニケーションに苦手意識があったり、学習能力に課題があったりして、自分に自信がもてない子どもたちということです。学校での学びや実習先での体験を通して、積極的に仕事に取り組む態度やできたことなどを具体的にほめられたり認められたりすることによって、意欲が増し、自己肯定感も上がってきます。ささやかなことでよいので「できた」という成功体験を積み重ねる、成長をみんなで喜ぶ、といった経験ができることが大切だというお話でした。生徒の成長が見られた事例として、教室では集中できず動き回っていた生徒が、自ら希望した職場では落ち着いて仕事ができ責任のある行動がとれたこと、またリストカットを繰り返していた生徒が教師との信頼関係を結べたことによりカウンセリングを受けたり服薬できるようになったこと、無気力で遅刻の常習だった生徒が、教室や職場でたくさんほめられて自信をもち高等教育に進学したこと、などをお聞きました。このプログラム参加により、総合制学校の卒業証書を手にして、社会参加する生徒が増えていくそうです。こう書くといふことばかりのようですが、このプログラムが合わない生徒もいて、受け身の生徒や学校外での実習だけに心が向いている生徒は適応が難しいこと、また生徒への支援だけでなく家庭への支援も重要であることなどもわかりました。



JOPOの担任と筆者(左)

このプログラム推進には、協力してくれる企業やお店を探したり、実習先への見回りや生徒の様子を細やかに見守れる専門性の高い教師の確保、予算をとること、教育成果をどのように測るかの評価方法の開発、そして教育成果をどう発信していくか、といった、幾つかの大きな課題があるそうです。お話を伺ったJOP O担任の先生方は、それぞれ、プログラムをうまく機能させるためには「一般クラスの教師の理解が必要」「学校の中にチームで支えあえるよい同僚関係がある」「カウンセラー、青少年指導員、学校ソーシャルワーカーなど多職種との連携ができる」など、「チーム学校」が大切だと強調されていました。担任として「生徒が生き生きしている姿を見るのが楽しみ」「大変な仕事だが、努力が実を結ぶところがよい」「完成形のない仕事なので面白い」と、笑顔でやりがい語られたことが印象的でした。

フィンランドと日本では、国の成り立ちや文化、価値観などが異なるので、単純な比較はできないし、よい制度であってもそのまま日本に導入することは難しいでしょう。それでも、子どもの個性や権利を尊重し、学校での学びだけにこだわらず社会で居場所を得ることを重視するJOP Oのようなユニークな教育プログラムの存在を知ると、日本でも、職業体験実習のやり方を工夫したり適応指導教室での学びに取り入れれたりできるのではないかと考えます。日本の教育に合った形にするにはどうしたらいいかなとあれこれ考えながら、機会があればこんなふうにご紹介(発信)させていただくことから始めています。

フィンランドには、いじめの予防と終息への介入を目的としたKiVa(キバ)プログラムもあって、すでに国外でも広まっていると聞きます。教師、学校、地域、国のレベルで、常に新しい教育方法や内容の開発と試行が行われていて、行くたびに驚かされます。一方で、フィンランドの先生方からは、日本の学校でよく聞かれる授業研究会について質問されたり、先輩教師が若手教師の授業にアドバイスするやり方の良さの指摘を受けたりします。子どもたちには日本のアニメや漫画が大人気で図書館に「マンガ」コーナーがあるほどですし、一部の高校では日本語が語学の選択必修科目のひとつに入っているほど、日本への関心が高いそうです。

今はコロナ禍で自由な行き来が制限されていて残念ですが、彼の国からまだまだ学んで考えたいし日本の教育事情の紹介もできればと思います、次の訪問の機会を楽しみに待っています。

【2020年度 教育学科の会】理事 (数字) は回生

【会長】	井上 信子
【副会長】	浦野 敬子 (25) 大森 桃子 (26)
【研究室委員会】	藤田 武志 五十嵐 敏文
【回生委員会】	委員長 萩野 厚美 (25) 副委員長 宇野 儀子 (25)
【総務部】	部長 未定
【会計部】	部長 野田 エリ (39) 副部長 宇都宮 江美 (39)
【会員部】	部長 松尾 里羽子 (31) 副部長 青木 紀子 (31)
【庶務部】	部長 杉山 京子 (27)
【会報編集部】	部長 石井 美奈子 (38)
【文化部】	部長 中込 知野 (37) 副部長 赤塚 国子 (24)



【学生委員】	
学部1年	牛田 早紀 加藤 梨乃 鈴木 紗葉 清藤 芽依 西村 佳奈子 生和 輝流 森 理紗 米田 舞
学部2年	内橋 舞子 江嶋 七海 木村 麻梨愛 佐藤 未果 福谷 奏絵 船山 あかり 松本 未音 山崎 舞夕
学部3年	井形 桃子 稲田 妃桃 小倉 朱夏 加藤 有貴 曾根 千佳 平間 美樹 丸山 実咲季 室星 咲彩
	山下 はな 山本 風音
学部4年	岩瀬 万弓 (委員長) 奥平 明日香 (企画・交渉) 小田木 咲子 (会計) 門倉 咲 (企画・運営)
	亀井 璃子 (企画・運営) 下田 朱莉 (広報) 庄 夏澄 (広報) 武田 結衣 (企画・運営)
	山口 真彩 (企画・交渉) 山崎 有紗 (広報)
大学院	木村 早紀子 (1年) 根岸 佐織 (2年)
【監事】	古戸 のぶ子 (27) 吉賀 眞理子 (30)

日本女子大学教育学科の会
令和1年度決算書(令和1年5月1日～令和2年4月30日)
令和2年度予算書

収入の部

項 目	令和1年度			令和2年度
	予算	決算	差額	予算(案)
入会金	100,000	96,000	-4,000	100,000
会費	2,980,800	2,193,189	-787,611	3,690,000
受取利息		60,668	60,668	
収入の部合計	3,080,800	2,349,857	-730,943	3,790,000

支出の部

項 目	令和1年度			令和2年度
	予算	決算	差額	予算(案)
奨励金	30,000	30,000	0	30,000
印刷費				
人間研究(450部)	300,000	222,750	77,250	300,000
会報	500,000	1,201,613	-701,613	1,300,000
名簿	10,000	0	10,000	10,000
名簿データ管理料	130,000	69,800	60,200	130,000
行事運営費				
大会	140,000	117,782	22,218	130,000
懇話会	140,000	136,633	3,367	100,000
ホームカミングデー	60,000	62,826	-2,826	100,000
理事会等運営費(会議費)	80,000	30,366	49,634	30,000
活動費				
研究室委員会	220,000	210,217	9,783	260,000
学生委員会	50,000	58,207	-8,207	60,000
回生委員会	140,000	80,224	59,776	100,000
総務部	60,000	76,048	-16,048	80,000
会計部	30,000	27,221	2,779	30,000
会員部	13,800	16,493	-2,693	14,000
庶務部	52,000	61,829	-9,829	61,000
文化部	20,000	37,528	-17,528	50,000
会報編集部	100,000	55,321	44,679	80,000
研究誌編集部	40,000	0	40,000	
研究室経費	40,000	18,633	21,367	
送料・通信費(会報発送委託費)	800,000	1,133,320	-333,320	800,000
事務・消耗品費(会報ハガキ印刷代含む)	30,000	13,669	16,331	30,000
雑費(卒業生ボールペン代)	10,000	10,500	-500	10,000
ホームページ(サイト保守・レンタルサーバー代)	65,000	65,162	-162	65,000
システム移行に関する諸雑費	0	23,930	-23,930	
桃柿育英会(震災義援金)	20,000	20,000	0	20,000
支出の部合計	3,080,800	3,780,072	-699,272	3,790,000

↓

令和1年度収支差額	-1,430,215
前年度からの繰越金	5,394,197
次年度への繰越金	3,963,982

上記のとおり報告いたします。

令和2年5月30日

教育学科の会 会長 田中雅文

会計 菊地康子 森岡美千子

上記について慎重に監査した結果いずれも適正かつ妥当なものと認めます。

監事 古戸のぶ子 吉賀真理子

会員の広場

ハガキ ⇄ コーナー



◆ 1つの間にか八十歳になりました。教職を退いてからも二十年になります。変わりゆく時の流れを見つめながら「アツ」という間のことでした。これからも前を向いてゆきます。

12 回 生 東京 都

◆会費未納がこんなに多数なのに驚いています。回生委員は各回生からだされているのでしょうか。

◆最近、大学時代の友と逢ったり電話で話すことが多いと思います。やはり、大学時代を同じ空気を吸い勉強したり、大学は宝です。

13 回 生 神奈川 県

◆21世紀のハイテク時代に、このような恐怖の日々が訪れるとは想像もできませんでした。友人は七十歳を過ぎても保育園に電車通勤しています。医療・スーパー・宅配など社会を支える方々が危険と隣り合わせで働いてくださって感謝してもしきれません。コロナ以前の生活に戻れるのかどうかわかりませんが、希望をもって耐えていきます。教育学科の会の皆様、どうぞご無理のないように！

23回生 千葉県

◆日本女子大学で学んだ四年間は私にとってかけがえのない日々でした。卒業で学ぶことが終わりになるのではなく、その後の生き方が大事なのだとアドバイスしてくださった先生がいらっしゃいました。学ぶことの楽しさは年齢に関係なく素晴らしいことです。

26 回 生 金 島 富 士 恵

◆年に一回東京に行く機会ができた（今年は見送りましたが）、最近、母校に立ち寄ってみたいなあと思いました。今回のたよりを読んで（目白キャンパス案内）、うっかりしていました。が、なぜ人間社会学部が目白に戻ったようになったのか？狭いので移動したと思うのですが、不便だったのでしょうか？

26 回 生 香川 県

◆小・中（家庭科）教員から心の教室相談員、そして四月から適応指導教室の指導員として勤務しています。市内の小中学生で不登校または不適応の子ども達と接しています。が、気持ちに寄り添いながら、自信をもつて自分自身の課題に取り組んでいこうと思うようになるまで背中をそっと押すことが私の務めと思っています。コロナの影響で不安な毎日ですが、やるべきことをやって平常心でいることが大切と感じています。

31回生 鈴木 浩子

◆いつも楽しく読ませていただいています。学生時代、毎日大学へ行くのを楽しみにしていたことを思い出します。今年は教員五年め。私も子ども達に学校へ行くのが楽しみと思ってもらえるように頑張ります。皆様のご活躍を心より願っております。

懇話会のお知らせ



今年の懇話会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ZOOMを用いたオンラインセミナーを行います。この機会に是非パソコンもしくはスマートフォンからご参加ください。

こちらの方法は「交通費がかからず」「どこからでもできる」
自宅からでも「参加可能」です。

この機会に「デジタルトランスフォーメーション」しませんか。

『コロナ禍での学校を考える』

教育学科 清水睦美教授

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、2月末、全国一律の休校措置がとられた。突然の一斉休校によって逆照射するように浮かび上がった学校の姿とは何であったのか。引き続きコロナ禍で学ぶ子どもたちに豊かな学校生活を保障するとはどういうことなのか。コロナ禍での学校の姿を捉えながら、子どもの学びを支える学校のありかたをあらためて問い直してみたい。

清水睦美教授のご紹介

專門分野

学校臨床学、教育社会学、移民の子どもに関する研究

略 歷

上越教育大学卒業後、長野県内の小中学校で教員経験の後に、東京大学大学院教育学研究科に進学、博士課程修了、博士(教育学)。東京理科大学教員を経て、2013年度より日本女子大学人間社会学部教育学科教員となる。

社会活動

現在少人数学級化を求める教育研究者有志の1人として活動しています。
<http://chng.it/wS6MPGwjdv>

お申込み方法

*メールの件名を『氏名と懇話会参加』とし、以下のメールアドレスにメールをお送りください。  **nakagomechino@gmail.com**
頂きましたメールあてにZOOMに参加するためのURLをお送り致します。
ご不明な点がありましたら中込(080(3087)8363)までご連絡ください。

*今回お送りしているハガキにQRコードがありますので、こちらからご自身の「メールアドレスの入力」をして頂き、備考欄に『懇話会参加希望』と記入して頂いてもご参加いただけます。

文化部部长 中込知野

日 時

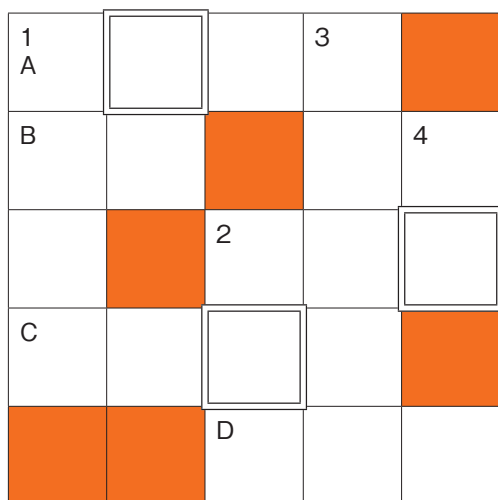
2020年12月5日(土)
14時～15時半までご講話
15時半～16時質疑応答

参加方法

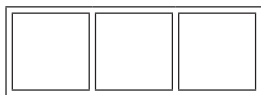
2020年9月20日(日)～
11月10日(火) 正午まで
「メールにて」受け付け

クロスワードパズル

二重枠の文字を組み合わせることができるひらがな 3 文字の言葉は？



答え



タテのかぎ

1. 輪にした紐を使う日本の伝統的な遊び。世界各地に似た遊びがあるそう。
2. 人類最古の植物染料のひとつといわれている。〇〇〇色の空。
3. かつては「文芸復興」と訳されたが、現在はそのままカタカナ書きされることが多い。
4. 上司に〇〇チョコをあげた人も多いのでは？

ヨコのかぎ

- A. 語源はギリシャ語の「像」。アメリカでは「カリスマ歌手」を指す。
- B. 食用、薬用、建材用など、さまざまに利用される。観葉植物としても人気。トロピカルな雰囲気が楽しめる。
- C. ここに着くとホッと一息。
- D. イギリス最大の淡水湖。未確認動物がいるといわれ、数多くの目撃例や写真が存在する。

<ヒント>

船のおもり。〇〇〇をおろす。

◆正解者 10 名に図書カードを贈呈します。(正解者多数の場合は抽選)

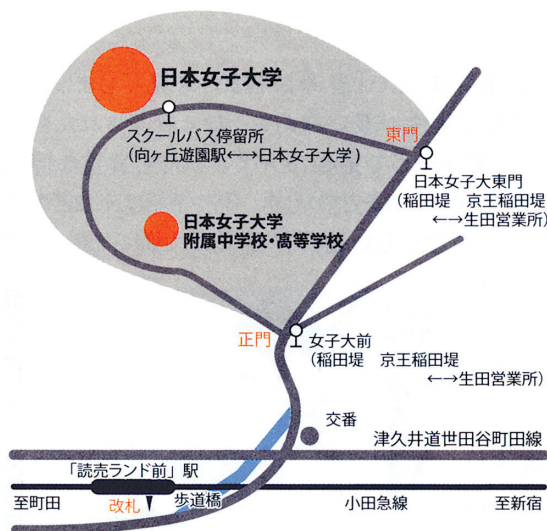
同封のハガキかインターネットからご応募ください。(10月16日締め切り)

◆前回の正解は<エプロン>でした。

たくさんのご応募ありがとうございました。

【当選者】(敬省略・数字は回生)

下方 奈津子 (18) 川上 清子 (21) 石橋 明子 (23) 清水 祈 (31) 鈴木 ユカ (36)
 後藤 倫子 (55) 利根 里紗 (57) 山川 理沙 (61) 和知 優香 (62) 岡野 ちひろ (63)



交通のご案内

◆小田急線 読売ランド前駅下車
徒歩 15 分

新宿から急行 25 分
 (向ヶ丘遊園乗り換え)
 新宿から準急 30 分

◆小田急線 向ヶ丘遊園駅下車
北口 3 番停留所よりスクールバス
(所要時間約 15 分 無料)

●京王線

『京王稲田堤』駅下車／
 小田急バス(生田営業所行)約 12 分／
 日本女子大東門または女子大前下車

●JR 南武線

『稲田堤』駅下車／
 小田急バス(生田営業所行)約 12 分／
 日本女子大東門または女子大前下車

編集後記

★4月からロックダウンしたUKでは、外出制限で自由に外に出られない、友達とも会えない元気あり余る2歳息子とのまさにおうちナーサリーの日々でした。絵具、砂遊び、粘土、寒天、料理・・・ありとあらゆるネタを盛り込みました。良い意味で「密」な時間だったと思いつける日が早く来てほしいです。イレギュラーな対応に苦戦している日本の教員仲間には日々エールを送っています。(佐野 加奈子 59回生)

★何年か前に「葦」での牧野先生の生田から目白への教育学科移転のお話、なんとなくずっと楽しみにしておりました。もう来年なんですネ。来年はいろいろな行事ができますように。(星野 ひろみ 37回生)

★人生には「思いもかけないことが起こる」ことを思い知った今年。その中で「こんな時だからこそ、前向きに」と、言うは易く行うは難し、ということもまた痛感しています。意識的に視野を広げ一歩一歩歩みをすすめていきたいと思う毎日です。会員の皆様の近況もぜひお寄せください。

(石井 美奈子 38回生
 会報編集部長)